

○6番 渕上愛衣君

行橋南小学校6年2組、渕上愛衣です。私は、行橋市の娯楽施設の新規導入について質問します。

行橋市には映画館や商業施設等の娯楽施設が少ないように感じます。また市民プールやボーリング場などの子どもが楽しめる所も少ないと感じます。映画館やボーリング場は民間企業でなければつくることができないと聞きました。

また民間企業は、ある程度の利益が出なければ呼び込むことができないため、人口があまり増えない行橋市に民間企業を呼び込むことは難しいのではないかと考えます。

そのため、魅力的なまちづくりを行ったり、積極的に人を呼び込む取り組みを行ったりしてみてもはどうでしょうか。

○後半議長 渡部稜君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

渕上議員のご質問にお答えします。議員おっしゃるように、映画館というの非常にハードルが高くてですね、昔は行橋市にも幾つかあったんですよね。ところが段々と映画館そのものも小さな映画館からシネコンとよく言ったりしますけれども、複数の映画を同時に上映する、幾つもスクリーンのあるシネマコンプレックスといったものが、いま現在では主流になっております。

全国的にも映画館が減っていくなかで、やはり映画館、要望はあるんですけれども、なかなか議員がおっしゃったような理由で厳しいのが現状です。

つい先だって、ある大きなスーパーを経営されている社長さんに会いまして、実際にそちらの会社では、実際に商業施設の中に映画館を持たれたりもしております。改めて私のほうからも、なかなか厳しいのは分かっていますけれども、ぜひとも検討していただけないでしょうかと、先々月くらいですかね、お会いしたときに、実際にお願いもしてきました。まずは、そういったご意見があるということで、うちとしてもまず考えてみましょうと、ただ、なかなかハードルが高いですよ、ということでご回答をいただいております。一応いま考えてくださっているというところでございます。

ただ、なかなか難しいという現状で、まずはそういうイベントを活かして、若い方々に本市を知っていただいたり、あるいは実際に足を運んでいただく、そういった方向になげていく、これは大変重要であると思います。いろんなイベント、こすもっぺもそうですし、桜のライトアップ等もそうですけれども、こういったものをもっともっと情報を発信していく、情報発信していくことで若い世代を中心に市民の皆様方にまずは来ていただく。

そしてさらには交流人口と言いますが、市外の方にも足を運んでいただき、行橋市の良さを知っていただく、そういうまず人々の交流、行き交う機会といったものを創造していく。そして活気をつくっていった民間企業にも進出をしていただく。こういったことは確かに考えられると思っていますので、我々もぜひとも、いま議員からいただいたようなご意見を参考に取り組んでまいりたいと思います。

後はイベントだけではなくて、住み暮らす皆様方がより充実した行橋市での生活を送っていただかなければなりません。そういった意味では、行橋市は福岡県内の中でもそうですが、緩やかに人口減少が始まった感じではあるのですが、実は、まだかなり頑張っているほうであります。周辺自治体でもかなり少子高齢化が進んでいるなかで、行橋市はかなり横ばいで人口をキープしておりまして、さらに東九州自動車道という高速道路もこれからさらに4車線化が進んでいく、空港もある、大きな港もある、そして特急もとまる、そしてまた201号線の道路も、これからさらに広がっていきます。

実はいろいろな大きな企業さんたちも、この行橋の周辺にいま注目してくださっております。そういった意味では、自動車関係もそうですけれど、まだまだこちらのほうに働き盛りの方々が来てくださる環境がいま整っていった段階です。

さらに今年の1月に子ども子育て世代に投資をしていきます、お金を投じていきますということを至るところで宣言をさせていただきました。そうすることによって総人口が減っていても働き盛りの方々に、行橋市に住み続けていただく、選んでいただく、そういったところを実は我々は考えております。

いま申し上げたような、いま住み暮らす方々、それから外部からも、ぜひ行橋に遊びに行きたいだけではなくて、行橋で子育てをしたいとか、そういった環境をさらに充実させていくことによって、総合的にもっともっと行橋の活気を生んで、そして最終的には映画館や遊び場なども、これは行橋につくるしかないなど、そういった気運をつくっていければと思っています。

○後半議長 渡部稜君
 淵上議員。

○6番 淵上愛衣君

できるだけ早く実現できるよう、期待しています。

次の質問です。私の学校の通学路には見通しの悪い道があります。朝は見守り隊の方々がいてくださるので、安心して登校できますが、下校の際に、何度か車がとまってくれずに怖い思いをしたことがあります。市は、通学路の安全対策について、何か対策を行っていますか。

○後半議長 渡部稜君
 執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。過去に、平成24年に、全国で登下校中の児童が大けがをしたりする事故が相次いで発生したことから、各小学校の通学路について、警察や道路の管理者といった関係機関と連携して緊急の合同点検を実施し、必要な対策について協議をしました。その後、10年前の平成27年に、きょうの午前中にも申し上げましたが、行橋市通学路交通安全プログラムという計画を作りました。この交通安全プログラムについて、若干述べさせていただきたいと思います。

毎年4月から5月頃に各小学校へ通学路の危険箇所について報告していただいております。どのような箇所が危険かの把握を教育委員会がしております。その後に、教育委員会、市や県や国の道路を管理する担当者、そして警察の方といった通学路の交通安全に関係する方々で、8月頃に危険箇所の合同点検を実施しています。その点検の中で、危ない箇所に歩道をつくれないうか、横断歩道を設置できないかといったような、通学路が安全になるための対応策について協議し、危険箇所を1つでもなくしていくように努めているところです。

どうしても時間がかかってしまうところもありますが、児童の皆さんが安全に登下校できるように、これからも関係する機関の皆さんと協力して通学路の安全対策に取り組んでまいりたいと思っています。以上です。

○後半議長 渡部稜君

渕上議員。

○6番 渕上愛衣君

御答弁、ありがとうございました。これで質問を終わります。